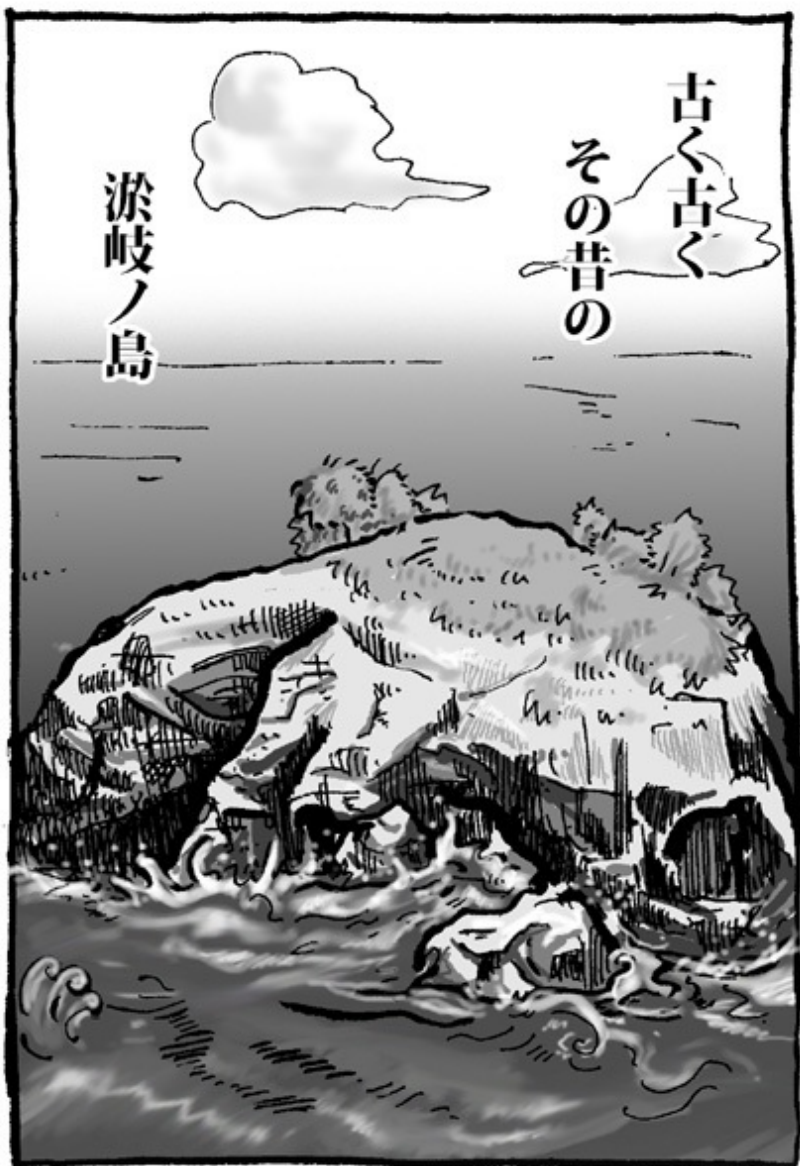


日本神話

# 因幡ノ白兔

(お事記カシ)



古く古く

その昔の

淤岐ノ島



島から  
因幡の国を  
眺めては

渡ってみたいと  
いつも思っ  
ておりました

日本神話

# 因幡ノ白兔

(たまりやちん)



古く古く

その昔の

淤岐ノ島

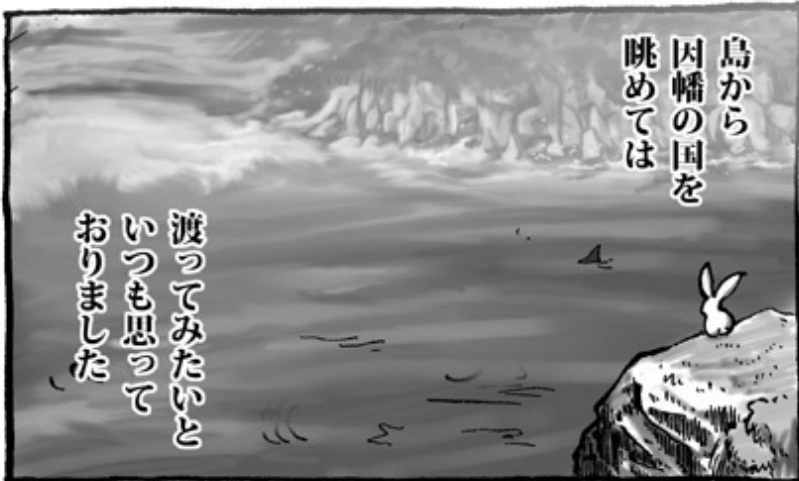


島には兎が  
暮しております

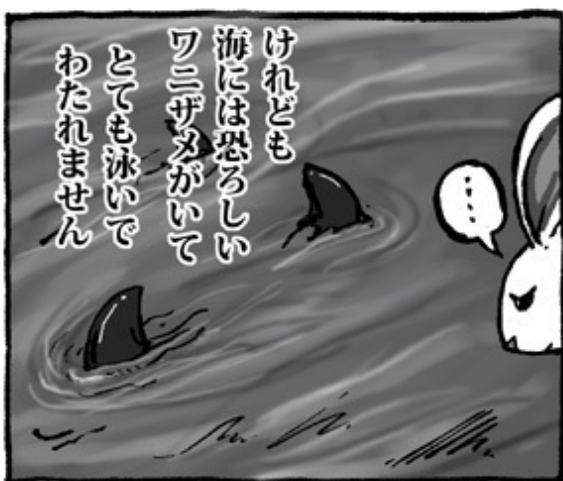


島から  
因幡の国を  
眺めては

渡ってみたいと  
いつも思っ  
ておりました



けれども  
海には恐ろしい  
ワニザメがいて  
とても泳いで  
わたれません



でも兎は  
どうしても  
渡りたい

来る日も  
来る日も  
考えて  
いました

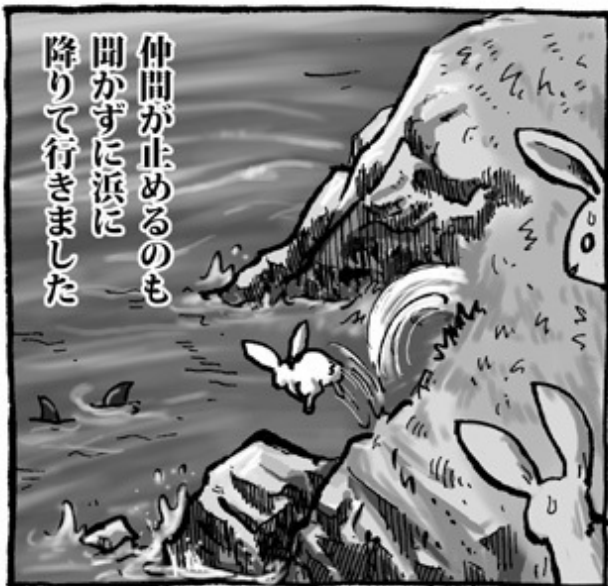


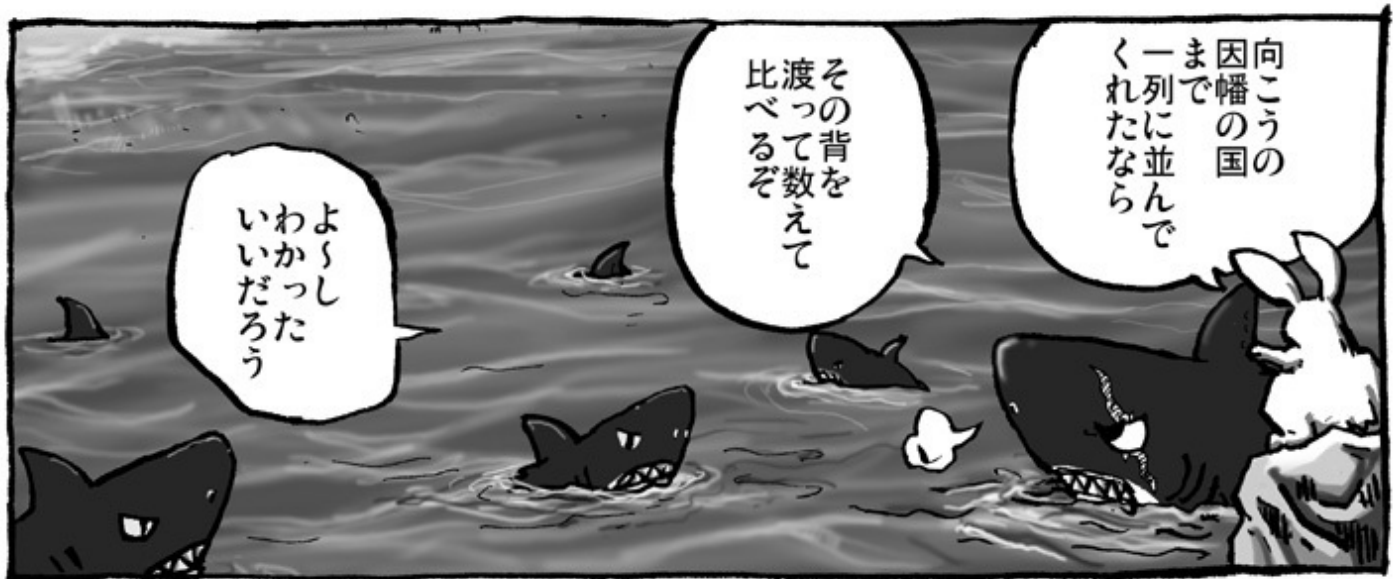
ある日

はたと  
閃いて



仲間が止めるのも  
聞かずに浜に  
降りて行きました







並べ!

兎は言葉巧みに  
ワニザメ達を  
勝負に誘いました

ぞあまあま

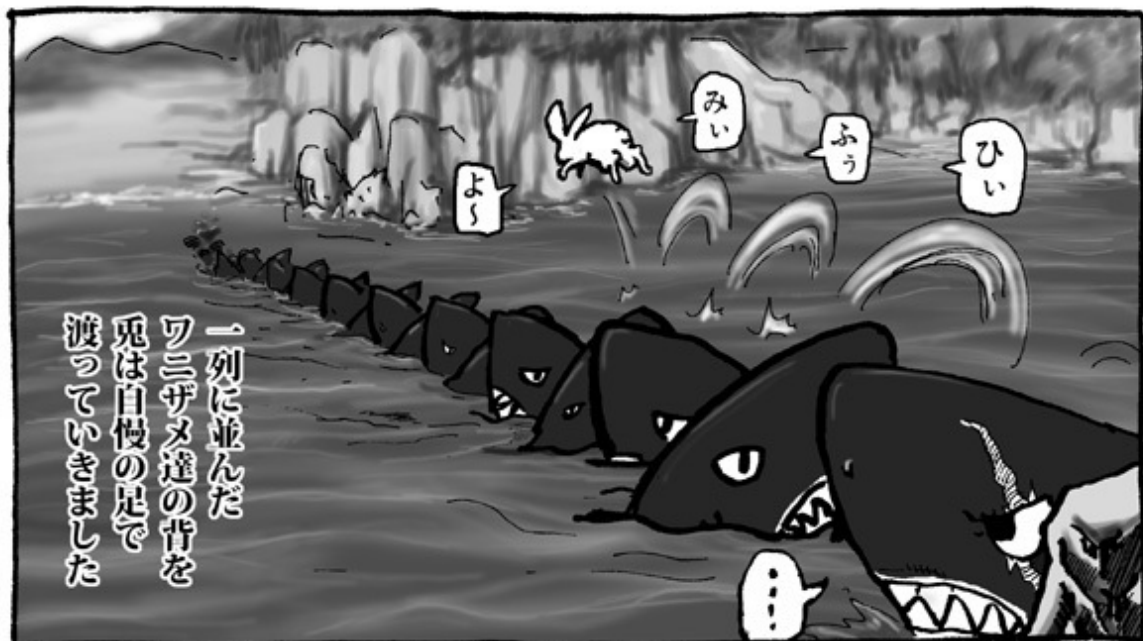
ふふふ



よし  
野郎ども

全員  
呼んで  
こい!

へいっ



一列に並んだ  
ワニザメ達の背を  
兎は自慢の足で  
渡っていきました

みい

ふう

ひい

よ

...



よし  
いくぞ!



数を  
かぞえる事も  
忘れて渡って  
いきました

因幡の国が  
近づくにつれて  
兎は嬉しくて  
嬉しくて  
たまりません

わーい



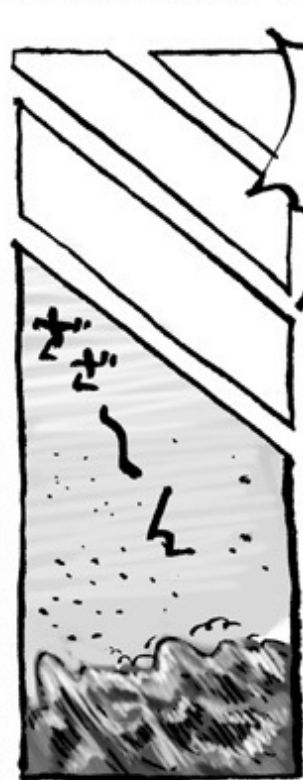
28

29

みそじ



お













八上姫は  
兄達の求婚に  
こたえず



遅れ  
ました  
やあ  
お綺麗な  
方だ

遅れてきた大己貴命の  
荷を背負う優しさに  
一目で気付き



嫁にして  
ください

こうして  
大己貴命と  
八上姫は  
結ばれました



その後  
幾多の試練と困難を  
乗り越えやがて  
大國主命と尊ばれる  
出雲の王となりました



一方、  
兎も元通りの  
姿を取り戻し  
元気に  
因幡の国を  
駆けました



やがて兎は縁結びの神として  
祀られる事となりました



兎が祀られた白兎神社は  
特別な意中の人との  
縁結びにご利益があるのだと  
伝わっております。

おしまい。